





©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
ホールに満ちるオーケストラの響きを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

第942回サントリー定期シリーズ

終演予定 20:00

9.25(金)19:00開演 サントリーホール 大ホール

第943回オーチャード定期演奏会

終演予定 16:00

9.27(日)15:00開演 **Bunkamura** オーチャードホール

第136回 東京オペラシティ定期シリーズ

終演予定 20:00

9.29(火)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

指揮: 渡邊一正

コンサートマスター: 三浦章宏

9/25

9/27

9/29

ドヴォルザーク:

序曲『謝肉祭』Op. 92(B. 169) (約10分)

ドヴォルザーク:

交響曲第8番 ト長調 Op. 88(B. 163) (約40分)

I. アレグロ・コン・ブリオ

II. アダージョ

III. アレグレット・グラツィオーソ

IV. アレグロ・マノン・トロツポ

主催: 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) |

独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人アフィニス文化財団、

公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団(9/25)、

公益財団法人 ロームミュージックファンデーション(9/25)

協力: **Bunkamura** (9/27)



※当初の発表から指揮者・曲目が変更となっております。

※本公演に途中休憩はございません。ただし、本公演に限り演奏中や曲間・楽章間での入退場を可能といたします。体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※再入場・途中入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※お帰りの際には、お手数ですがお手元の入場券はがきに<ご来場者様のご氏名・住所・電話連絡先>をご記入の上、ロビーの回収ボックスに投函してお帰りください。ご協力をお願い申し上げます。

出演者プロフィール

9/25

9/27

9/29



©満田聡

指揮

渡邊 一正

Kazumasa Watanabe, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 レジデント・コンダクター

2015年4月から東京フィルハーモニー交響楽団レジデント・コンダクター。1995～2002年広島響正指揮者、1996～2015年3月まで東京フィル指揮者を歴任。第69回日本音楽コンクール作曲部門（管弦楽：東京響）と第77回同コンクール・ピアノ部門（管弦楽：東京フィル）でコンクール委員会特別賞を受賞。国内オーケストラではN響とは定期演奏会を始め多くの共演を重ね、また読売日響、日本フィル、札幌響、京都響、九州響、新日本フィル、群馬響などほぼすべての主要な日本国内のオーケストラへ定期的に客演。オペラでは新国立劇場でマスカーニ歌劇『友人フリッツ』、同劇場バレエ団『白鳥の湖』『くるみ割り人形』『ドン・キホーテ』などを指揮し、2006年『白鳥の湖』新演出の指揮でも大成功を収めた。サンクトペテルブルグ交響楽団の定期演奏会に客演するなど、海外でも活躍している。

ピアニストとしても8歳の時に東京響、東京フィルと協演。1987年～1989年まで渡欧しハンス・ライグラフ教授に師事。その後、東京フィル定期、広島響定期などで弾き振りを含むプログラムを行なうなど、ピアニストとしての才能も高く評価されている。

楽曲紹介

解説＝野本由紀夫

ドヴォルザーク (1841-1904)

序曲『謝肉祭』 Op. 92 (B. 169)

『謝肉祭』Op. 92は、演奏会用三部作『自然、人生、愛』の第2曲である。第1曲が『自然のなかで』Op. 91、第3曲が『オテロ』Op. 93だが、圧倒的に『謝肉祭』が頻繁に演奏される。

ドヴォルザークは、『謝肉祭』をわずか1か月半(1891年7月28日から9月12日)で作曲した。その間に彼は50歳の誕生日を迎えている(9月4日)。すでに国際的な名声を得ていたドヴォルザークは、前年にはケンブリッジ大学と母国ブラハ大学から名誉博士号を授与され、『謝肉祭』はブラハ大学への返礼として作曲された。

ところで、謝肉祭(カーニバル)は復活祭(イースター)と関係が深い。そもそもキリスト教では、十字架刑で亡くなったイエスの復活こそが、宗教上もっとも重要な意味をもつ。その復活祭(3月から4月にかけての移動祝日)を迎える前の40日間(四旬節)の断食(もともとは「肉断ち〈Caro vale〉」)の直前に、ごちそうをたらふく食べてどんちゃん騒ぎするお祭り、それがカーニバル(Carnival)なのである。

ドヴォルザークの『謝肉祭』も、このお祭り騒ぎをほうふつとさせる。冒頭からはじけるような活気あふれる主題がはじまり、お祭り気分引き込まれる。トロンボーンやテューバだけでなく、タン布林やトライアングルも大活躍する(この曲はよく、打楽器奏者のオーケストラ入団試験の課題曲になる)。

喧騒が一段落すると、フルートやオーボエによる別世界(中間部)が訪れる。このメロディは、第1曲『自然のなかで』の「自然をあらわす主題」である。短いヴァイオリン独奏のあと、お祭りの喧燥がまた戻ってくると、盛り上がりは最高潮に達し、トゥッティ(オーケストラ全員による強奏)の熱狂のうちに曲は閉じられる。

【作曲年代】1891年7月28日～9月12日 【初演】1892年4月28日 プラハのルドルフィヌムにて。作曲家自身の指揮による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（タンブリン、トライアングル、シンバル）、ハーブ、弦楽5部

9/25

9/27

9/29

ドヴォルザーク (1841-1904)

交響曲第8番 ト長調 Op. 88(B. 163)

ドヴォルザークの交響曲第8番(1889年作)は、もっとも「スラヴ色」の濃い交響曲だといわれる。

おそらく、彼を取り巻く環境の変化も、創作に大きな影響を与えたのだろう。はじめてイギリスに招聘された1884年、その報酬などもあって、ドヴォルザークはプラハの南方にあるヴィソカーに別荘を建てた。彼は翌年から、公務がシーズンオフになる長い夏休みに、この豊かな自然にあふれる地で作曲できるようになり、創作力が爆発したのである。

交響曲第8番の作曲は、「ピアノ四重奏曲第2番」の完成からほとんど日をおかない1889年8月26日からはじめられ、9月13日には第1楽章のスケッチが完了。その3日後には第2楽章を、そのまた1日後には第3楽章を書き上げ、9月23日には最終楽章のスケッチも終わっている。まさに「筆が追いつかない」ほどの勢いで作曲されたわけだ。オーケストレーションをほどこして、最終的に11月8日にこの交響曲は完成した。

ドヴォルザーク自身、この交響曲は「新しい手法」で作曲したと自認していた(ドヴォルザーク研究の第一人者オタカル・ショウレクによる)。そのひとつは、彼がフランツ・リスト(1811-1886)の「交響詩」から受け継いだ、自由なソナタ形式の構成法である。もうひとつは、ボヘミアの田園風景を思い起こさせる音楽語法。そして彼自身の旧作からの引用の多さである。それぞれについては、楽章解説のなかで述べよう。

第1楽章 型にはまらない自由なソナタ形式の楽章。ト長調の交響曲なのに、冒頭部（第1主要主題）はいきなり「ト短調」ではじまる。ひきつづきフルートでのびやかにト長調の第2主要主題が歌われると、音楽は躍動的になっていく。

副主題部は、弦楽器が3連符のあわただしい伴奏をしているなか、木管楽器が「ファ#ツファ# | ファ#ー」と演奏する箇所である。普通のソナタ形式ならニ長調になるところ、この楽章ではなんとロ短調になっている。

再び冒頭のト短調の音楽が回帰したところが、意表をついて「展開部」のはじまりだ。以下、これまでの音楽的断片が散りばめられたあと、トランペットで高らかに第1主要主題が歌い上げられて「再現部」となる。最後は、たたみ掛けのようにして終わる。

第2楽章 アダージョの緩徐楽章。大きくは「A-B-A-展開部-B-A（終結部）」の構造になっている。冒頭部Aはハ短調で、弦楽器を歌わせたら天下一品のドヴォルザークらしい旋律の後、カッコウを思いおこさせるフルートの音型が登場する。このAは、同じ1889年の夏に作曲されたピアノ曲集『詩的な音画』Op. 85の第3曲「古い城で」とよく似ている。

つづくBの部分は、明るいハ長調となる上に、ヴァイオリン群が伴奏として下行音階をひたすら弾きつづけるので、聴いていてすぐにわかるだろう。やがてヴァイオリン独奏があって、トゥッティ（オーケストラ全員の演奏）となる。それが静まると、ふたたびカッコウも登場するAにもどる。

急に不穏な空気となり、展開部は切迫したような音楽となる。その後のBは、今度は木管楽器が伴奏にまわって下行音階を吹く。濃厚なAとなって終結部を迎え、ここではカッコウはトランペットが奏する。最後は静かに終わっていく。

第3楽章 3拍子の舞曲の楽章。ヴァイオリンのメロディは、哀愁を帯びたスラヴ舞曲を思わせる。長調に変わった中間部は、楽譜に指示はないが、ややテンポを落として演奏することもある。フルートとクラリネットがのびやかに演奏するこの主題は、自作のオペラ『がんこ者たち』（1874年作）の主人公トニク（テノール）のアリア「若い娘と老人」を引用したもの。ふたたび冒頭の短調の部分にもどり、最後は急速なテンポとなって終わる。

第4楽章 変奏曲風の自由なロンド形式による楽章。トランペットのファン

ファーレで開幕する。ドヴォルザークはつくづくチェロが大好きで、この楽章も変奏主題はチェロで呈示される。すぐにヴァイオリン群を従えた**第1変奏**となり、トゥッティによる勇ましい**第2変奏**がつづく。そのあとフルートの長いソロが聴かせどころ。

ふたたびトゥッティの**第3変奏**となったあと、ハ短調となって土俗的なリズムがヴィオラで刻まれる。音楽が切迫して盛り上がって**第4変奏**となり、その到達先がトランペットとホルンによるファンファーレの再現である。ふたたび冒頭と同様のチェロによる主題が回帰したあと、トゥッティの**第5変奏**は勢いを増し、スラヴ舞曲のように熱狂的に終わりを迎える。

【作曲年代】1889年8月26日～11月8日 【初演】1890年2月2日 プラハのルドルフィヌムにて。作曲家自身の指揮による

【楽器編成】フルート2（2番はピッコロ持ち替え）、オーボエ2（2番はイングリッシュ・ホルン持ち替え）、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、弦楽5部

のもと・ゆきお（音楽学・指揮）／桐朋学園大学助教授を経て、玉川大学芸術学部教授。NHKテレビ「名曲探偵アマデウス」監修、同「ららら♪クラシック」の解説者、Eテレ学校番組「おんがくラボ」番組委員。NHK-FMラジオ「オペラ・ファンタスティカ」レギュラー解説者。昨年末、日本テレビ「世界一受けたい授業2時間SP」の「第九」コーナーに、指揮者・先生としてスタジオ出演。

The 942th Suntory Subscription Concert

Fri. September 25, 2020, 19:00 at Suntory Hall

The 943th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. September 27, 2020, 15:00 at **Bunkamura** Orchard Hall

The 136th Tokyo Opera City Subscription Concert

Tue. September 29, 2020, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

Kazumasa Watanabe, conductor

Akihiro Miura, concertmaster

Antonín Dvořák:

"Carnival" Overture, Op. 92 (B.169) (ca. 10 min)

Antonín Dvořák:

Symphony No.8 in G major, Op. 88 (B.163) (ca. 40 min)

- I. Allegro con brio
- II. Adagio
- III. Allegretto grazioso
- IV. Allegro ma non troppo

25
Sep

27
Sep

29
Sep

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council,

Affinis Arts Foundation,

The Mitsubishi UFJ Trust Foundation for the Arts (Sep 25),

Rohm Music Foundation (Sep 25)

In Association with **Bunkamura** (Sep 27)



- The conductor and the program have been changed from the original announcement.
- As there will be no intermission during the concert in order to preserve social distancing, entering and exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter or reenter in the middle of the concert, we may escort you to a seat different from the one you were originally assigned.
- Please write your name/address/phone number in the permission post card, and post it in the collection box in the lobby before you leave the concert. We would sincerely appreciate your cooperation.

Artists Profile

Kazumasa Watanabe conductor

Resident Conductor of
the Tokyo Philharmonic Orchestra



©Satoru Mitsuda

Born in Tokyo. Since April 2015 he has been Resident Conductor of Tokyo Philharmonic Orchestra. Watanabe has served as Resident Conductor of Hiroshima Symphony Orchestra from 1995 to 2002, and Conductor of Tokyo Philharmonic Orchestra from 1996 to March 2015. He made debut with NHK Symphony Orchestra in 1998 and since then he has regularly conducted the orchestra in subscription concerts and others. Other Japanese orchestras he regularly conducts are Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, Japan Philharmonic Orchestra, New Japan Philharmonic, from all of which he has won trust on his musicality and conducting. He is also remarkable for conducting operas and ballets. He has conducted Mascagni's *L'amico Fritz* at the New National Theatre, Tokyo, *Swan Lake*, *Nutcracker*, and *Don Quixote* for the ballet company of the same theatre. He is also making international career conducting a subscription concert of St. Petersburg Symphony Orchestra in 03/04 season.

He performed a Haydn piano concerto as a pianist with Tokyo Symphony Orchestra and Tokyo Philharmonic Orchestra at the age of 8. From 1987 to 1989 he studied piano at the Music Academy of Darmstadt, and in Prof. Hans Leygraf's master class. Since returning to Japan he has performed Beethoven's piano concertos No. 3 and No. 5 "Emperor", programs of Ravel, Mozart, some of which he conducted and played the piano in subscription concerts of Tokyo Philharmonic, and with Osaka Philharmonic Orchestra and Sapporo Symphony Orchestra. Watanabe's talent as a pianist is also appreciated.

Program Notes

by April L. Racana

Antonín Dvořák (1841-1904) "Carnival" Overture, Op. 92 (B.169)

Shortly before his venture to the 'new world', Dvořák composed a trio of pieces based on nature, life and love. The *Carnival* (1891) was the central piece of the three, while the first was entitled *In Nature's Realm* and the last was based on Shakespeare's *Othello*. The middle of the three however has come to be performed on its own more often than not, perhaps not least due to its vibrant celebration of life.

The work was premiered in Prague on April 20th, 1892 with the composer conducting. The dedication was a nod to the University of Prague where he had recently been bestowed an honorary doctorate. Dvořák performed the entire triptych again upon his arrival in the United States later that same year, for his first concert at Carnegie Hall. He had been named the new director for the National Conservatory of Music in New York and this trio of overtures seemed the appropriate greeting to begin his foray into the new world, with its philosophical commentary on the three pillars so important to the composer.

Throughout the work, Dvořák's typical use of Slavic folk music and dance rhythms can be heard. The festive atmosphere of *Carnival* is interrupted midway with one of the composer's favorite instruments, the English horn, together with solo flute and violin, and meant to portray "a pair of straying lovers". In Dvořák's own program notes he describes this overture as follows:

"The wanderer reaches the city at nightfall, where a carnival of pleasure reigns supreme. On every side is heard the clangor of instruments, mingled with shouts of joy and the unrestrained hilarity of people giving vent to their feelings in the songs and dance tunes."

25
Sep

27
Sep

29
Sep

Work composed: July 28~September 12, 1891 World premiere: April 28, 1892 at Rudolfinum in Prague conducted by the composer

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, english horn, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, triangle, cymbal), harp, strings

Antonín Dvořák (1841-1904)

Symphony No.8 in G major, Op. 88 (B.163)

Dvořák as a composer is perhaps most renowned for his *Ninth Symphony*, often dubbed the ‘*New World Symphony*’. Yet he was capable of composing not only symphonies, but in virtually any genre, including opera, symphonic poems, concert overtures, dances and marches, concertos, chamber music, as well as works for piano and voice. Many of these works were written as a result of commissions, which led one of his publishers Simrock to comment that Dvořák could ‘pull melodies out of his sleeve.’

In spite of this reputation, Dvořák took great pride in working out every idea to its fullest, studying the master composers who preceded him in depth and setting a high standard for himself:

“To have a fine idea is nothing special. The idea comes of itself, and if it is fine and great, then that is not because of the person who has it. But to develop the idea well and make something great of it, that is the hardest part – that is art!”

For a number of years, many people did not even realize Dvořák had composed any symphonies prior to his last five, as his earlier works remained unpublished until much later. But each of his symphonies displays the developments and explorations of a composer going through various stages as an artist.

This, the *Eighth Symphony*, is said to be composed during his ‘poetic period.’ From April to June of 1889 he had written thirteen piano pieces, which

he described as follows: “Here I’m not just a pure musician, but a poet.” He had become fascinated by programme music and this can be heard clearly in this symphony, which was composed between August and November of 1889.

Dvořák conducted the premiere of the *Eighth Symphony* himself, in Prague on February 2nd, 1890. And although the work is arranged with the traditional four movements, (a fast opening movement, followed by a slow second movement and scherzo in the third, closing with a brilliant fourth movement), the poetic explorations of this period can be heard throughout. There are a great variety and number of thematic and motivic ideas that express a range of musical styles including fanfares, pastoral themes, chorales, and marches, as he explores this poetic language of allusions. In fact, when composing this work, Dvořák was on retreat at a recently acquired summer home in Vysoka where he said he felt ‘as if cut off from the world’ but instead could ‘enjoy the beauties of God’s nature.’ Indeed, in this symphony, one gets a sense of Dvořák as he described himself in this time of his life, as much a poet as musician.

Work composed: August 26~November 8, 1889 **World premiere:** February 2, 1890 at Rudolfinum in Prague conducted by the composer
Instrumentation: 2 flutes (2nd doubling on piccolo), 2 oboes (2nd doubling on english horn), 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, strings

25
Sep27
Sep29
Sep

April L. Racana / As a Music Specialist, Ms. Racana completed her undergraduate studies at the University of Illinois, Champaign-Urbana (BS/Piano Pedagogy) and her graduate studies at San Francisco State University (MA/Music). In addition, she was accepted as part of a post-graduate fellowship at Northwestern University’s Bienen School of Music, as well as for the Japan Studies Program at International Christian University. Having been a Music Specialist teaching both in California for nearly a decade, and at Nishimachi International School where she taught for more than 25 years, she feels she has learned as much from her many students as she has taught them over more than three decades, and especially appreciates the opportunity to share her musical insights to an even wider community, as program annotator for the TPO.

Infection Control at Tokyo Phil

In restarting our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



Admission tickets (seat number postcards) are checked without being physically torn and the audience's temperature is checked with a thermography camera.



Seats will be reallocated by social distance. We request that the audience fill out their contact information in the seat number postcards, which we will collect after the concert. The contact information will be kept under lock and incinerated one month after the performance. It will not be used for any purpose other than for quarantine purposes. To avoid congestion in the lobby, we would appreciate it if you could fill out the form before coming to the venue.

In July, Dr. Erisa Sugawara, Professor of Infection Control at Tokyo Health Care University, visited our concert and checked the preventive measures we took at the venue. Her comments were as follows:

We are in the era of "With Corona." To enjoy the orchestra at a concert venue, we have to wear masks throughout the concert, sanitize our hands before entering the building, and keep guests away from each other. Avoidance of the so-called "three densities" and basic infection control are becoming a matter of course for the organizers, the orchestra staff and the guests.

I observed that the Tokyo Philharmonic Orchestra has been working with clients in accordance with the guidelines issued by the government, taking all possible measures to ensure a safe welcome.

Now, there is no "zero risk" anywhere on earth. However, with reliable knowledge and the right behaviors, we can get your happy times back.

I hope you all will enjoy the great music that way.

東京フィルだより

提携都市公演

長岡特別演奏会

- 日時・会場 10月4日(土)15:00開演
長岡市立劇場 大ホール
- 出演 尾高忠明(指揮)、森 麻季(ソプラノ)
東京フィル(管弦楽)
- 曲目 ベッリーニ／歌劇『ノルマ』序曲、
「清らかな女神よ」
チレア／歌劇『アドリアーナ・ルクヴルール』
より「私はつつましい僕」
プッチーニ／歌劇『マノン・レスコー』
第2幕間奏曲、「この柔らかなレースの中に」
ドヴォルザーク／交響曲第8番
※当初の発表から出演者、演目が一部変更と
なっております。
- 料金 S席6,000円、A席4,000円
- 問合せ (公財)長岡市芸術文化振興財団 事業課 0258-29-7715



響きの森クラシック・シリーズ vol. 74

- 日時・会場 11月28日(土)15:00開演
文京シビックホール
- 出演 小林研一郎(指揮)、小山実稚恵(ピアノ)
東京フィル(管弦楽)
- 曲目 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第3番*
交響曲第5番『運命』
- 料金 S席5,000円、A席4,000円、B席3,000円
- 問合せ 東京フィルチケットサービス
03-5353-9522
(平日10時～18時・土日祝休)



Photo Reports 2020年8月のステージより

8月の東京フィルは「午後のコンサート」2公演。今年80歳を迎えたマエストロ小林研一郎の指揮とお話で、「平日の午後のコンサート」ではベートーヴェン・プログラム、3月からの延期公演となった「渋谷の午後のコンサート」ではギタリスト村治佳織さんを迎え、「アランフェス協奏曲」ほか名曲をお届けしました。

第19回 平日の午後のコンサート 〈250オのベートーヴェン〉 8月4日(火) 東京オペラシティ コンサートホール

指揮とお話：小林研一郎
ナビゲーター：田添菜穂子
コンサートマスター：三浦章宏

ベートーヴェン／
劇音楽『エグモント』序曲
交響曲第5番 八短調『運命』より第1楽章
交響曲第7番

アンコール：
アイルランド民謡／ダニー・ボーイ



ベートーヴェン「第九」をきっかけに音楽家を志したというマエストロ。引き締まった演奏で「リズムの神化」「舞踏の神化」の異名をとる「交響曲第7番」をお届けしました



ナビゲーターはマエストロとの掛け合いもおなじみのフリーアナウンサー田添菜穂子さん

第4回 渋谷の午後のコンサート 〈コバケンの新世界〉 8月11日(火) Bunkamuraオーチャードホール

指揮とお話：小林研一郎
ギター：村治佳織
コンサートマスター：三浦章宏

ベートーヴェン／劇音楽『エグモント』序曲
ロドリゴ／アランフェス協奏曲*

ソリスト・アンコール：
タレガ／アルハンブラの思い出
ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』

アンコール：
アイルランド民謡／ダニー・ボーイ



酷暑が訪れた8月の東京で、ギターの爽やかな音色を届けてくれた村治佳織さん。マエストロ小林とお話もお楽しみいただきました ©寺司正彦

演奏会場の感染対策について

演奏会の再開にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大予防のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。 写真＝三浦興一



入場前の手指消毒、間をあけて整列のお願い



入場券(座席番号はがき)の目視確認と、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています



ソーシャルディスタンスによる再配席を行い、入場券(座席番号はがき)にご来場者様の連絡先を記入いただき、終演後に回収しております。ご連絡先は公演後1か月間、厳重に保管の後、焼却処分いたします。防疫上の目的以外には使用いたしません。ロビーの混雑を避けるため、ご来場前にご記入をいただけますと幸いです。

7月定期では、東京医療保健大学 感染制御学教授 菅原えりさ先生にご来場いただき、会場の対策についてご視察をいただきました。菅原先生のコメントをご紹介します。

「Withコロナの時代。演奏会場でオーケストラを楽しむために、マスク着用の徹底、入館時の手指消毒、お客様同士距離を置く対策。いわゆる「3密」回避と基本的感染対策は、主催者も、楽団員スタッフも、そして、お客様も、当たり前のことになってきています。東京フィルは、政府が発出したガイドラインを元に、お客様を安全にお迎えするため、できる限りの対策を講じております。

今、地球上どこにも「ゼロリスク」はありません。しかし、信頼できる知識を得、適切な行動を取れば、幸せな時間を取り戻すことはできます。

どうぞ皆さま、素晴らしい音楽をお楽しみください。」(菅原)

奇跡のホルンアンサンブル「Japan Hron Sound」CDリリース!

NHK交響楽団首席ホルン奏者・福川伸陽氏の発案・呼びかけで、日本各地のプロ・オーケストラのホルン奏者38名が集結し奇跡のホルンアンサンブル「ジャパン・ホルン・サウンド」が誕生!管楽器専門店ドルチェ楽器各店舗、ドルチェ楽器 楽天市場にて好評発売中です。



指揮: 秋山和慶

出演: 東京フィルホルン奏者…磯部保彦、齋藤雄介、高橋臣宜(以上、首席)、田場英子、豊田万紀。ほか、神奈川フィル、群馬響、新日本フィル、東京響、東京シティ・フィル、東京都響、日本フィル、読売日響、NHK響の奏者

曲目: ワーグナー(福川伸陽 編)『ワルキューレ』より「ワルキューレの騎行」
R.シュトラウス(小林健太郎 編)「アルプス交響曲」
久石譲(大橋晃一 編)「風の谷のナウシカ」より《鳥の人～Ending～》
菅野よう子(三村総撤 編)花は咲く 他

価格: 3,300円(税込)

問合せ: ドルチェ楽器東京店03-5909-1771 ほか、名古屋店、大阪店、楽天市場 管楽器専門店ドルチェ楽器で発売中

<https://item.rakuten.co.jp/dolce-webshop/10000923/>

第1ヴァイオリン 津田好美が8月末をもって定年退職いたしました。

「8月末日をもちまして東京フィルを退職いたしました。

1980年4月、A.クワドリ氏指揮の下、東敦子さんのリサイタルが初めての仕事でしたが、以来、様々なコンサート、オペラ、バレエ等の演奏をして40年の月日が経ちました。それらのひとつひとつが私のオーケストラ人生を彩ってくれています。

今年はコロナ禍により、音楽が全く出来ない辛い時間がありました。当たり前であるという幸せに感謝を忘れずにいたいと思います。

東京フィルは楽員がとても仲の良いオーケストラです。ひとりひとりのその温かさが美しい音、ハーモニーとなって、皆様に幸せな時間を届けられることを心より願っております。

長い間本当にありがとうございました」。



ご支援の御礼とお願い

今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2月下旬より東京フィルが出演する演奏会の全てが中止・延期となりました。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。そのような中、たくさんの励ましのお言葉とともに、中止公演のチケット払戻し辞退によるご寄附や、銀行振込等による温かいご支援をいただきました。心よりお礼申し上げます。

今後の演奏会も、感染症拡大防止の観点から、当面の間はチケットの販売数等、規模を縮小しての開催が見込まれております。

皆様のご寄附が大きな力となります。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みだけでしたら幸いです。1万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（本冊子23ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行 (郵便振替)	00120-2-30370	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	

※ 寄附金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入して、下記送付先へご送付ください。寄附申込書の書式については、下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。

寄附申込書のダウンロードはこちらから

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【寄附申込書 送付先／お問合せ】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521 (土日祝日を除く10時～18時)

新秋の候、時下いっそうご壮健のこととお喜び申し上げます。
 残暑を凌ぐような清々しいハーモニーをご堪能ください。
 引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、
 法人並びに個人(パートナー会員)の皆様のご寄附により支えていただいております。
 ここにそのご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー (敬称略)

ソニー株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員 (五十音順・敬称略)

(株)IHI	代表取締役社長 井出 博	(株)インターテキスト	代表取締役 海野 裕
(株)アイエムエス	取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株)	代表取締役社長 片野坂 真哉
相澤内科医院	理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ	代表取締役社長 安齋 尚志
アイ・システム(株)	代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	桜美林大学	総長 佐藤 東洋士
(株)アシックス	代表取締役会長CEO 尾山 基	大塚化学(株)	特別相談役 大塚 雄二郎

(株) オーディオテクニカ	代表取締役社長	松下 和雄
(公財) オリックス宮内財団	代表理事	宮内 義彦
花王(株)	代表取締役 社長執行役員	澤田 道隆
カシオ計算機(株)	代表取締役社長	樫尾 和宏
キャノン(株)	代表取締役会長兼社長 CEO	御手洗 富士夫
(株) グリーンハウス	代表取締役社長	田沼 千秋
(株) ケイブ	取締役会長	高野 健一
(医) 浩仁会 矢田眼科医院	理事長	矢田 浩二
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之
新興和製薬(株)	代表取締役	田中 めぐみ
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛
(株) J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准
(株) 滋慶	代表取締役社長	田仲 豊徳
(株) ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己
ジューテックホールディングス(株)	代表取締役会長	足立 建一郎
菅波楽器(株)	代表取締役社長	菅波 康郎
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉
ソニー株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男
(株) ソニーミュージックエンタテインメント	代表取締役社長CEO	村松 俊亮
(株) 大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	澤田 太郎
高砂熱学工業(株)	代表取締役社長	小島 和人
(株) タクト	代表取締役	苗代 政治
都築学園グループ	総長	都築 仁子

(株) テクノスジャパン	代表取締役社長	吉岡 隆
東急(株)	取締役社長	高橋 和夫
東京オペラシティビル(株)	代表取締役社長	三和 千之
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣
トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一
トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
(株) ニチケアパレス	代表取締役	齊藤 正俊
(株) ニフコ	代表取締役社長	山本 利行
日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
(株) パラダイスインターナショナル	代表取締役	新井 秀之
富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株) 不二家	代表取締役社長	河村 宣行
(株) プライムステーション	代表取締役	浅田 亨
丸紅(株)	取締役会長	國分 文也
(株) 三井住友銀行	頭取CEO	高島 誠
三菱商事(株)	代表取締役社長	垣内 威彦
三菱倉庫(株)	相談役	宮崎 毅
(株) 三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
(株) 明治	代表取締役社長	松田 克也
森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
(株) 山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
楽天(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
(株) リソー教育	取締役会長	岩佐 実次

後援会員

欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄
(有) オルテンシア	代表取締役	雨宮 睦美
(医) カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹
(株) 京王エージェンシー	代表取締役社長	岡村 達矢
(医) だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎
(宗) 東京大仏・乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽
(一社) 凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹

(株) 日税ビジネスサービス	代表取締役会長兼社長	吉田 雅俊
富士通(株)	代表取締役社長	時田 隆仁
本田技研工業(株)	代表取締役社長	八郷 隆弘
三菱地所(株)	執行役社長	吉田 淳一
三菱重工業(株)	取締役社長	泉澤 清次
三菱電機(株)	執行役社長	杉山 武史

ご支援のお願い

2020年3月、東京フィルハーモニー交響楽団は創立109年を迎えました。

1月に新シーズン開幕を迎えた東京フィルは、1月から12月までの一年を通じて、皆様の暮らしと共に響きあう音楽をお届けし、心豊かな社会へと繋ぐ役割を担います。また、定期演奏会や「午後のコンサート」、特別演奏会や提携都市公演ほか多様な音楽活動を通して、国際的に活躍する演奏家や将来を嘱望された若手演奏家らと共に様々な作品に取り組み、より広く多くの皆様にオーケストラの価値を認知いただけるよう尽力いたします。そして、日本の芸術文化発展に寄与すべく、多様化するグローバルな社会において文化交流の架け橋となるよう、より一層努めてまいります。

是非とも皆様方からお力添えを賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

ご寄附会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「賛助会デスク」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた} 鹿文)

電話: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から5年間の長期採択を受け(2014～2018年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東・東海地区の小中学校36校、のべ16,000名以上の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。

※留学生招待シート、東日本大震災“とどけ心に”特別招待シートは、当面の間ご案内を停止させていただいております。詳細は次ページをご参照ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「東日本大震災」とどけ心に”特別招待シート”として活用させていただいて参りましたが、このたびの新型コロナウイルス感染症拡大防止策の実施に伴い、当面の間、チケット寄附の運用を見合わせとさせていただくことといたしました。再開となりましたら改めてご案内をさせていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

2020年3月以降の東京フィル定期演奏会／午後のコンサートのチケットの払戻を辞退することによる東京フィルへのご寄附については、ご希望の方に税控除のための確定申告用の書類（寄附領収証書・税額控除に係る証明書）をお送りしております。税控除に関する詳細は東京フィル事務局・寄附担当 partner@tpo.or.jp までお問合せください。

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【お問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521（平日10時～18時）

Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>   



©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

レジデント・コンダクター
Resident Conductor

渡邊 一正
Kazumasa Watanabe

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

柄本 三津子☆
Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

山内 祐子☆
Yuko Yamanouchi

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

黒沢 誠登
Makoto Kurosawa

佐藤 実江子
Mieko Sato

高木 祐香
Yuuka Takagi

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ
Cellos金木 博幸◎
Hiroyuki Kanaki服部 誠◎
Makoto Hattori渡邊 辰紀◎
Tatsuki Watanabe黒川 実咲☆
Misaki Kurokawa高麗 正史☆
Masashi Korai石川 剛
Go Ishikawa大内 麻央
Mao Ouchi太田 徹
Tetsu Ota菊池 武英
Takehide Kikuchi佐々木 良伸
Yoshinobu Sasaki長谷川 陽子
Yoko Hasegawa渡邊 文月
Fuzuki Watanabeコントラバス
Contrabasses片岡 夢児◎
Yumeji Kataoka黒木 岩寿◎
Iwahisa Kuroki小笠原 茅乃◎
Kayano Ogasawara遠藤 柊一郎
Shuichiro Endo岡本 義輝
Yoshiteru Okamoto小栗 亮太
Ryota Oguri熊谷 麻弥
Maya Kumagai菅原 政彦
Masahiko Sugawara田邊 朋美
Tomomi Tanabe中村 元優
Motomasa Nakamuraフルート
Flutes神田 勇哉◎
Yuya Kanda斉藤 和志◎
Kazushi Saito吉岡 アカリ◎
Akari Yoshiookaさかはし 矢波
Yanami Sakahashi下払 桐子
Kiriko Shimobara名雪 裕伸
Hironobu Nayukiオーボエ
Oboes荒川 文吉◎
Bunkichi Arakawa加瀬 孝宏◎
Takahiro Kase佐竹 正史◎
Masashi Satake杉本 真木
Maki Sugimoto三谷 真紀
Maki Mitani若林 沙弥香
Sayaka Wakabayashiクラリネット
Clarinetsチョ・スンホ◎
Sungcho Choアレッサンドロ・
ベヴェラリ◎
Alessandro Beverari万行 千秋◎
Chiaki Mangyo黒尾 文恵
Fumie Kuroo林 直樹
Naoki Hayashiファゴット
Bassoonsチェ・ヨンジン◎
Young-Jin Choe廣幡 敦子◎
Atsuko Hirohata井村 裕美
Hiromi Imura桔川 由美
Yumi Kikkawa森 純一
Junichi Moriホルン
Horns磯部 保彦◎
Yasuhiro Isobe齋藤 雄介◎
Yusuke Saito高橋 臣宜◎
Takanori Takahashi今井 彰
Akira Imai大東 周
Shu Ohigashi木村 俊介
Shunsuke Kimura田場 英子
Eiko Taba塚田 聡
Satoshi Tsukada豊田 万紀
Maki Toyoda古野 淳
Jun Furuno山内 研自
Kenji Yamanouchi山本 友宏
Tomohiro Yamamotoトランペット
Trumpets川田 修一◎
Shuichi Kawata野田 亮◎
Ryo Noda古田 俊博◎
Toshihiro Furuta重井 吉彦
Yoshihiko Shigei杉山 眞彦
Masahiko Sugiyama前田 寛人
Hirohito Maedaトロンボーン
Trombones五箇 正明◎
Masaaki Goka中西 和泉◎
Izumi Nakanishi辻 姫子◎
Himeko Tsuji石川 浩
Hiroshi Ishikawa平田 慎
Shin Hirata山内 正博
Masahiro Yamauchiテューバ
Tubas大塚 哲也
Tetsuya Otsuka荻野 晋
Shin Oginoティンパニ&
パーカッション
Timpani & Percussion岡部 亮登◎
Ryoto Okabe塩田 拓郎◎
Takuro Shiota高野 和彦◎
Kazuhiko Takano木村 達志
Tatsushi Kimura鷹羽 香緒里
Kaori Takaba縄田 喜久子
Kikuko Nawata船迫 優子
Yuko Funasako古谷 はるみ
Harumi Furuyaハープ
Harps梶 彩乃
Ayano Kaji田島 緑
Midori Tajima宮原 真弓
Mayumi Miyaharaライブラリアン
Librarians武田 基樹
Motoki Takedaステージマネージャー
Stage Managers稲岡 宏司
Hiroshi Inaoka大田 淳志
Atsushi Ota古谷 寛
Hiroshi Furuya◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フォアシュペラー
Vorspieler

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
	篠澤 恭助		鈴木 啓介
専務理事	田沼 千秋		瀬谷 博道
石丸 恭一	寺田 琢		日枝 久
	遠山 敦子		南 直哉
常務理事	野本 弘文		
工藤 真実	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	岡部 純	河野 啓子	佐野 恭一	長池 陽次郎	細洞 寛
池田 敏美	小樽 敦子	近藤 勉	清水 真佐子	長岡 愼	本田 詩子
糸井 正博	小山 智子	今野 芳雄	瀬尾 勝保	長倉 穰司	松澤 久美子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	齊藤 匠	高岩 紀子	新田 清枝	湊 貞男
岩崎 龍彦	加藤 明広	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	山屋 房子
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 正雄	竹林 良	野仲 啓之助	吉田 啓義
上野 眞行	金崎 真由美	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	坂名城 昌子	米倉 浩喜
生方 正好	川人 洋二	桜木 弘子	田中 千枝	福村 忠雄	脇屋 俊介
大兼久 輝宴	木村 友博	笹 翠	田村 武雄	藤原 勲	
大和田 皓	黒川 正三	佐々木 等	戸坂 恭毅	細川 克己	

〈発行日〉 2020(令和2)年9月25日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉歐文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

